

H23 年度科学・技術関係予算概算要求 個別施策ヒアリング  
【施策番号 27114：発電用新型炉技術開発委託費（経済産業省）】

- 1 日時：平成 22 年 10 月 1 日 : 14 : 20 ~ 14 : 40
- 2 場所：中央合同庁舎 4 号館 2 階 第 3 特別会議室
- 3 聴取者：相澤議員、白石議員、奥村議員、  
外部専門家 3 名（うち若手 1 名）
- 4 説明者：経済産業省 資源エネルギー庁 電力・ガス事業部  
原子力政策課 原子力政策担当企画官 舟木健太郎
- 5 施策概要

エネルギー資源の乏しい我が国において、原子力発電によって発生する使用済燃料を再処理して回収されるプルトニウム等を高速増殖炉で有効利用する高速増殖炉サイクル技術（国家基幹技術）を確立することは、長期的なエネルギーの安定供給の確保及び環境負荷の低減を図る上において極めて重要である。

高速増殖炉サイクルの確立に向け、実証炉等の実証施設の概念設計を実施する。また、実証炉に必要な要素技術のうち、設計・建設段階において必要となる実プラント技術の試験等を実施する。

6 質疑応答模様

【相澤議員】

文科省との役割分担の話があったが、分かりにくい。研究スケジュールにおいてどこまで達成できるのかを明らかにして欲しい。フェーズ で 5 年後に何が達成できるのか。

【経産省】

2015 年から先は基本設計に着手することになる。基本設計は安全審査に向けたものであり、技術的な情報（データ等）が必要。5 年後にその直前の段階にまで持って行く。安全性の評価や基準・指針を揃える必要がある。これを次の第 2 フェーズで実施する。その成果を受けて、基本設計の段階に移行する。

【相澤議員】

概念設計についての経産省の役割はどこか。フェーズ の（ 2 ）のどれを経産省がおこなうのか。

【経産省】

経産省は 5 ページに記載している実証施設の概念設計と実証炉に係る実プラント技術の開発を原子力機構に委託し実施する。

以上